

第2回 正しく学ぶ! 感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座



新型コロナウイルス感染経験者・ 医療従事者へのインタビューから 見えた真実

参加 無料 申込 不要 オンライン (YouTube)



2021年5月28日(金) 19:00-20:00

講師のご紹介

■三浦 麻子氏

大阪大学大学院 人間科学研究科 教授



京都市生まれ。博士(人間科学)。専門は社会心理学。コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムを解明することに関心をもつ。感染禍という「状況の力」が人間の心理・行動に与える影響について量的アプローチで検討している。

■平井 啓氏

大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授



山口県生まれ。博士(人間科学)、公認心理師。専門は健康・医療心理学、行動医学、医療行動経済学、サイコオンコロジー。著書に『医療現場の行動経済学—すれ違う医者と患者』(東洋経済新報社、2018年、大竹文雄との共著)、『ワークシートで学ぶ問題解決療法—認知行動療法を実践的に活用したい人へ実践のコツを教えます』(ちとせプレス、2020年、本岡寛子との共著)など。

■村上 靖彦氏

大阪大学大学院 人間科学研究科 教授



東京都生まれ。Ph.D.(パリ第7大学、基礎精神病理学・精神分析学博士)。著書に『在宅無限大—訪問看護師が見た生と死』(医学書院、2018年)、『子どもたちが作る町—大阪・西成の子育て支援』(世界思想社、2021年)、『交わらないリズム—出会いとすれ違いの現象学』(青土社、2021年近刊)、『ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと』(中公新書、2021年近刊)など。

今回の講座概要

2020年夏から冬にかけて、新型コロナウイルス感染禍にさまざまな立場で当事者として関わった21名にインタビュー調査を実施。2021年3月に『異なる景色—新型コロナウイルス感染禍に際する感染経験者・医療従事者へのインタビュー記録』としてまとめました。

本講義では、インタビューから分かったコロナ禍の実態をご紹介しますとともに、講師それぞれの専門的立場(社会心理学・現象学・健康心理学・行動経済学)から、コロナ禍という社会現象をどう読み解くかを議論します。

CiDERとは

新型コロナウイルス感染症の流行により、TVやインターネットで溢れる真偽不明な情報、軽視されていた感染症の基礎研究、感染症の流行に弱い医療体制など、日本が抱える課題が浮き彫りになりました。

これらを教訓に、今回の国難を乗り越え、次なる感染症の流行に備えるため、大阪大学は、大学の知や人材が結集する「感染症総合教育研究拠点(CiDER)」を2021年4月に設置しました。

当拠点では、科学的根拠に基づく情報発信、予防から診断におよぶ総合的研究、医療従事者の皆様への教育訓練、感染症対策リーダーの育成に取り組みます。

オンライン (YouTube) 参加はこちら→

<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider/detail20210528.php>



主催 | CiDER(大阪大学感染症総合教育研究拠点), 一般社団法人ナレッジキャピタル

問い合わせ

大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)

☎ 06-6879-4903 ✉ kansensho-soumu@office.osaka-u.ac.jp

🌐 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>

CiDER WEBサイトはこちら→

